

地域のSDGsの取組みを紹介します。

**不登校の子に安心できる場を
特定非営利活動法人 ウイズアイ
理事 松本 なづなさん**



梅園にあるウイズアイが運営する『みんなのお家ゆいゆい』で、不登校の子どもの居場所づくりをしています。主に小中学生が対象で、平日の9〜16時、いつ来ても帰っても良い場所です。料理をする、絵を描く、ただのんびりするなど、過ごし方は子どもによって違います。居場所が一番大切にしていることは、子どもにとって安心・安全な場であることです。

ウイズアイは長く子育て支援をしてきた団体で、清瀬に住む多くの親子を乳幼児期から見守ってきました。居場所事業の立ち上げには、子どもの不登校に直面した親たちへ「大丈夫、一生懸命に子育てをしてきたことを知っているよ」とウイズアイなら心から伝えられる……という想いがありました。

ですから、不登校の子どもの持つ親の会や、父親対象の会もあります。不登校について考える会「そらかフェ」では、支援者や地域の団体とのつながりが生まれ、子どもに職業体験の場を提供していただくなど、不登校の子を支える輪が広がっています。

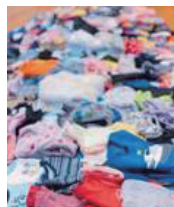
課題は、周知不足です。選択肢の一つとして、必要とする家庭へこの場の情報が届くよう努力したいと思っています。また、事業を維持するためには資金が必要で、寄付の受付など体制強化も課題の一つです。子どもの可能性を広げる文化や芸術に触れる場、自立につながる経験や体験の場を広げていければと思っています。

(近藤)

**子ども服をシェア
一般社団法人 日本子ども服おさがり協会
代表理事 小林 保晴さん**



寄付で集めた新生児からサイズ120までの服を無料でシェアするイベント、それが『おさがりモンスター』です。命名者でもある広告の仕事をする女性と話し合ったことを契機に、事業のコンセプトを作り上げ、最初のイベントを、令和2年11月13日に清瀬市の児童センター（ころぼっくる）で開催しました。



チラシを作り、2週間の回収期間で集まった衣類は500キロ。それをボランティアのスタッフが仕分けして当日を迎えました。会場では、自由に手に取れるように床にブルーシートを敷いて服を置くと、楽しそうに服を選ぶ子ども達の姿が見られました。結果は大盛況で、ニーズがあれば沢山の人が集まってくれることを実感しました。次回の開催は、衣替えを迎える季節に予定しています。

SDGsの活動としては、目標12-5、「廃棄物の発生防止、削減、再生利用」です。子ども服を無駄なく循環させるため、時間をかけて仕組みを作り上げました。集まった衣服をリユースし、それができない服はリメイクし、リメイクできない服は海外の子ども達に使ってもらう、または、研究所と連携して海に流出した重油の吸着材にする。これによって、衣服の廃棄物を大幅に削減でき、そこにつながる私達の役割だと考えています。

(山口)

**良い未来に向かって、少しでも角度を
変える
清瀬第四中学校校長 今関 眞哉さん**



清瀬四中では、昨年度から生徒会主催で空堀川岸の清掃活動を行なっています。2年前、空堀川水質調査に生徒が参加したことをきっかけに、生徒たちが自発的に声をあげて、現在も活動を続けています。活動中にカラスが運んできたごみに気が付ききました。プラスチックボトルに汚れが残っているなど、ごみの処理が不十分であることが原因で運ばれたようでした。また、水流でプラスチックが分解されて、1ミリ位の粒状になっているのを、川のあちこちで見つけました。空堀川ですでにマイクロプラスチックになっているのが現状です。

今年度はコロナ禍の影響で校外学習が中止となり、1年生はSDGsを学習しています。セーブ・ザ・チルドレンの教材を使い、17の目標を確認し、ホワイトボードミーティングと、ファシリテーションという話し合いの手法を活用し、清瀬の魅力について班ごとにまとめました。また、世界に目を向けた「世界の子どものストーリー」を読み、課題や問題解決のクラス発表を実施しました。さらに「ちよっといい明日づくり」の学年発表会と、授業を展開していききました。学習を通して、生徒たちはファシリテーションの力を身につけ、問題を話し合う経験ができました。

SDGsを自分たちのことと考え、どう行動できるのか、清瀬市の皆で何ができるのかを、中学校三年間で学んでくれたら良いなと期待しています。

(中嶋)